

図書紹介

パートナー・ドクターを作ろう 100歳までの女性医療

種部恭子 著
岩波ブックレットNO.661 2005年



昔50回、今450回。これはいったい何の数だと思うだろうか。なんと女性が生涯に経験する月経の数なのだ。初潮年齢が下がったこと、生涯に産む子どもの数が減ったこと、閉経年齢が上がったことなどで、女性が生涯に経験する月経の数が大幅に増えたという。

現代女性が抱える様々な不調や病気は女性ホルモンの影響によるところが大きい。女性の生活の質を保つために、著者は、生涯にわたって婦人科のパートナー・ドクターを持つ習慣が必要と訴えている。(M)

産む・産まない・産めない 女性の体と生き方読本

松岡悦子 編
講談社現代新書 2007年



「産む・産まない」だけでなく、女性の体をめぐり疑問と出産前後から子育てまでのすべてが、わかりやすく章立てで、まとめられている。14人の専門家が執筆。「あなたが「不妊」に直面したら」では、不妊の原因・治療に加え、子どもを持たない人生を否定する社会が指摘されている。「すてきなお産はあなたもできる」では、「先生お願いします」から「私が産む」という主体的なお産について語られている。避妊・不妊・助産所での出産、どんな出産をどこで、どのようなケアを受けるかを、自分で選び取ることの大切さが示されている。心身を見つめ、自分で選択し決定して生きるための貴重な情報と、各章ごとの書籍紹介も嬉しい。(S)

ブルミエール 私達の出産

写真：メ・ジュアン・プロダクション
文：マリー＝クレール・ジャヴォイ
訳：山内恵理子、岩澤雅利
ランダムハウス講談社 2008年



風よけの簾を吊るしただけの囲いの中で、砂の上に横たわって出産を迎えるニジェールの遊牧民の女性。生質の山羊が屠られ、難産の母子安全が祈願される。アフリカ大陸コゴ砂漠の出産風景だ。お産は世界共通ではない。文化や慣習、歴史や風土によってまったく異なり、父親の役割もまた同じではない。生まれ死ぬことは宇宙の自然な運びであると、本文と写真から伝わってくる。本書は、世界5大陸70カ国を対象に2006年から2年近くかけて調査し、ドキュメンタリー映画の制作後に、日本を含む9カ国の出産風景をまとめて上梓された。(S)

インターネットやケータイなど進化する情報環境に子どもも大人もさらされています。あふれるほどの情報がありながら、家庭ではなかなか正面から触れにくい「性と生殖」や「その健康や権利」について子どもたちに必要なことが伝わらないもどかしさを感じることはないでしょうか。

身体と心の健康を保つために「早すぎる」ことも「遅すぎる」こともありません。専門家のメッセージをヒントに「性と生殖に関する健康と権利」(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)について考えてみませんか。

寄稿

あなたの生と性あなたが主役



高田昌代氏

神戸市看護大学教授。助産師。専攻は母性看護学。研究テーマは助産師のマンパワー、地域における助産師活動、女性の健康、特にDV(ドメスティックバイオレンス)、性教育・思春期保健に関する研究。主な著書は「まるごとお産」(共著)「母親学級・両親学級指導マニュアル」(共著)

東京や奈良で産婦が脳内出血を起こしたが搬送がうまくいかず、思わしくない結果となったニュースが流れました。今の時代、お産で亡くなるのかと思った方は少ないでしょう。お産はほとんどが正常に経過しますが、まれに予期しない異常がおこることがあり、現在でも年間約50人が何らかの原因で亡くなっています。これをゼロにするのは極めて難しく、死亡に至らない障害を残すこともあります。また、出産後は親として子どもを養育する義務があり、女性はそのため的人生を繰り広げることになります。

振り返って考えてみましょう。

誰が産むことを決めたのでしょうか。2人でという声が返ってきてそうです。もちろん相談して決める事になりますが、自分の命を彼に委ねられますか。彼はあなたの命に責任をもてないことから、妊娠が判明した時に産むか産まないかを最終決めるのは、当然女性となります。

では、この時期に妊娠するかしないかは誰が決めたか。夫からの「産んで欲しい」という懇願や「産むな」という命令、「子どもはまだなの」という周囲からの圧力によって、自分の意志でなく妊娠を決めていますか。また、妊娠を希望している場合はなんら問題がないのですが、妊娠を望まない場合は避妊法を用いて妊娠を阻止しなければなりません。避妊は、妊娠により女性の健康と人生がかかっていることから、妊娠から自分を守る方法なのです。全国調査によれば、性交時用いている避妊法は、コンドームが80%前後で戦後から不動の第1位、次は陰外射精(これは正確に言うと避妊法ではありません)約25%とほとんどのカップルが「男性が使用する避妊法」を選択し、使用は男性の協力に委ねざるを得ない方法を使っています。女性が自ら使う避妊法は僅か数%です。つまり、避妊は女性が自分の健康や人生を決めることがらであるにもかかわらず、実際は女性が自分の力や意思で妊娠を防ぐことができていない状況にあるということです。

女性は自分の命と人生を懸けてお産をする。だからこそ、女性はだれからも支配されることなく、自分の健康と人生を自分で決める権利を駆使して欲しいと願うのです。

■生きるための乳がん あなたが決める克服するための医療

リリー・ショックニー著 青木美保 編訳
三一書房 2008年

■そこに幸せが生まれているから

アグネス・チャン 著 潮出版社 2008年

■思春期の性 今、何を、どう伝えるか

岩室紳也 著 大修館書店 2008年

■生殖医療の何が問題か

伊藤晴夫 著 緑風出版 2006年

■女性の身体と人権 性的自己決定権へのあゆみ

若尾典子 著 学陽書房 2005年

■「女性検診」がよくわかる本

対馬ルリ子 著 小学館 2006年

■行き場に悩むあなたの女性外来

天野恵子 編著 亜紀書房2006年

図書賞30周年案内

どなたでも利用できます。はじめてのかたは登録のため住所確認のできるもの(健康保険証、運転免許証など)をご持参ください。1回につき2冊まで、貸し出し期間は2週間。

はなしてみようよ! エッチ・愛・カラダ 学ぶ! 教える! リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

劔 陽子 著
明石書店 2004年



知識を持ったうえで「性」の自己決定に役立ててもらおうと、若者の視点を盛り込んだパンフレットを製作、福岡県内で無料配布したところ、絶大な若者の支持を得たという。第1、第2弾パンフレットやその感想をまとめたのが本書。まず、「自分の気持ちに向き合ってみる」から始まるところに好感が持てる。若者の会話形式で読みやすく、男女の身体と心、性病や妊娠の予防方法の効果やリスクについても詳しい。中学生や高校生に読んでもらいたい。(U)

私の居場所はどこにあるの? 少女マンガが映す心のかたち

藤本由香里 著
朝日新聞出版 2008年



子どもの頃、身近にあった少女マンガ。それによって少女たちはさまざまなことを学んできた。マンガのヒロインと自らを重ね合わせて、いうなればバーチャルな世界を生きてきた。少女マンガは少女たちに社会というものを垣間見ただけではなく、自らもまた、さまざまな進化を遂げてきた。時代とともに、あるいは時代の先を行き、性を越えた「人間」としての存在に気づかせ、絶えず自分の居場所を探し続けてきた少女たちに進むべき道筋を指し示してきたのだ。60年代末から90年代末の少女マンガの変遷を通して、30年にわたる女性の価値観の変化がよく理解できる。(M)

AV神話

アダルトビデオをまねてはいけない

杉田 聡 著
大月書店 2008年



アダルトビデオ(以下AV)は男性の性的関心に応えるためにつくられたものであるということ。AVの中でセックスそのもの、痴漢やレイプ(犯罪)にまで及ぶ映像は、すべて製作者の意図による俳優の演技であるということ、リテラシー(読解能力)なしに、これは女性の望むことだと若い男性が信じたならとても怖いことだ。性の低年齢化が進む中、AVがセックスの指南役にならぬよう、正しい知識を提供することの大切さを痛感する一冊。(U)